



卒業を祝して

附属歯科技工士学校長 野村 修一

26期生の皆さん、卒業おめでとうございます。本校を志願し入学してから、あっという間に2年時間が過ぎてしまったのではないのでしょうか。皆さんが入学したのは、21世紀最初の年であり、学校創立25周年記念式典が行われた年でもありました。1年生では、技工物の製作に関わる知識だけではなく、その背景にある歯科医学・歯科医療についても学ぶため、毎日がとても忙しく、くじけそうになった事もあったかもしれません。また、今年度から2年生の臨床実習を全て臨床ケースで行うことにしました。約束した日時までに技工物を完成させなければ、なによりも患者さんにご迷惑をかけることとなるので、夜遅くまで頑張ったこともあったでしょう。しかし、緊張した中で技工実習をやり終えたことは、卒業式を迎えた今の皆さんにとって、充実感と自信に繋がっていると思います。

近年の歯科医学の発展と歯科医療の多様化・高度化は目覚ましいものがあり、これからの歯科技工士には幅広い知識と高度な技術を習得した有能な人材が求められています。皆さんがこの2年間で学んだものは、歯科技工学という専門分野の基礎に過ぎません。卒業後は歯科医院に勤務する人、歯科技工所に勤務する人、あるいは研修施設に進む人と、皆さんの進路は異なっていますが、さら

に研鑽を重ねていく必要があります。しかし、学生時代のように恵まれた環境で丁寧に教えてもらえる機会は殆どなく、これからは自らが問題点を見出し、学び、工夫して解決してことが求められます。何事にもよらず事を始めたなら、成功するまで辛抱強く地道な努力を重ねていくことが大切です。それには気力と体力が必要です。気力は向上心、熱意と言い換えても良いでしょう。そして、この気力を持続するには体力の裏づけが必要です。生活習慣を整え、健康維持には十分留意して下さい。

さて、平成16年度から実施される国立大学の独立行政法人化など、現在の国立大学を取り巻く状況は極めて厳しものがあります。国立大学歯学部附属学校としての本校の存続についても検討課題とされています。

形は変わったとしても、多くの優秀な歯科技工士を養成してきた新潟大学歯学部附属技工士学校の伝統を継続していく案がいくつか出されています。

最後に、この2年間、精神的そして経済的なご支援を頂いたご父兄の皆様、ならびに皆さんの教育を担当して下さいました教官の方々に心から感謝申し上げますとともに、皆さんの大いなるご活躍を期待しています。

卒業にあたって

歯科技工士学校2年生 小橋 真希子



3月の卒業を目前にひかえ、私が今思うことは「この歯科技工士学校に入って本当によかった」ということです。

高校3年生の時、この学校に見学に来て、先生方の歯科技工教育への熱心な姿勢に感銘を受け、帰りの新幹線で絶対この学校に行こうと決めました。そして無事入学することが出来てからの2年間は、とても早く充実した日々でした。

なにも知らない私たちが、たった2年間で働けるようになるのはとても大変なことでした。特に2年生での臨床実習は、1年生での基礎実習のように作りやすく都合のいいものばかりではなく戸惑うこともありました。臨床実習をやることによって、自分の作った技工物が患者さんの口腔内に

はいるということを改めて実感しました。しかし、忙しくなってくると、約束日までに作るという当たり前のことですら大変になってきて、そのプレッシャーや責任感に押しつぶされそうになったこともありました。そんな私も、友達や先輩方、両親などに励まされ支えられてここまでやってこれることができました。

先生方からは、歯科技工をやるための基礎から社会にでるための心構えなど様々なことを教えていただきました。この学校でなければ学ぶことや経験することが出来なかったことがたくさんあったように思います。

まだ歯科技工士として、スタートラインに立ったばかりですが、歯科医療に携わる者として常に向上心を持ち努力し続けていきたいと思えます。

最後になりましたが、どんなときでも丁寧でわかりやすく指導して下さった本校の先生方、お世話になったドクターの皆様方、いろいろな面で支えてくれた両親にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

